

## 2021 年度「卒業時アンケート」の結果と分析

2021 年度の「卒業時アンケート調査」は、「大学運営に関する満足度」「学習成果に関わる内容」について明らかにすることを目的に実施した。2022 年 3 月に 2021 年度卒業生である、児童福祉学科 180 名対象に調査票を配布した。176 名が回答し、回収率は 97.7%であった。

なお、「学習成果に関わる内容」の指標は、カリキュラムポリシーに準じて作成された「和泉の 10 の力」とした。

### 【結果と分析】

「大学運営に関する満足度」について、満足度に関する質問は 25 項目あり、「和泉で学んでいかがでしたか？」については、98.3%の学生が「満足」「やや満足」を回答している。全ての項目において、「満足」「やや満足（充実・良い）」の合計が 91%以上であり（「利用していない」学生は除き計算）、満足度は高い傾向にある。最も満足度の低い項目は、「コロナ禍での 2 年間となりましたが、本学での学生生活はいかがでしたか？」であり、「満足」「やや満足」の回答が 91.9%であった。これは、コロナ禍による対面授業やボランティア活動等が制限されたことへの影響が考えられる。

「学習成果に関わる調査」では、「和泉の 10 の力」に基づいた学習成果の指標の全ての項目において、98%以上の学生が「身についた」「ある程度身についた」と回答している。その中でも「建学の精神を基調として、高い倫理観を培う。子どもや利用者の人権を尊重し、より豊かな人生をささえることができる」、「さまざまな人々が共生する社会の実現に向け貢献できる」、「授業、実習、ボランティア活動等で学んだことを生かし、保育・福祉の実践現場のニーズに合わせ保育内容を実践し、振り返ることができる」といった、「人権の尊重」、「多様性の尊重」、「実践する力」に関する 3 項目は、100%が「身についた」「ある程度身についた」の回答であった。この結果から、コロナ禍における学習環境であったとしても、教職員が創意工夫をしながら、教育の質の担保が行えたと考えられる。今後の課題として、コロナ禍の教育が実践現場で実際に効果的であったか等を把握するため、卒業生アンケートから縦断調査を行う必要がある。